

第4回池田市総合計画審議会 議事要旨

日 時：令和4年4月10日（日）14：00～15：15

場 所：池田市役所 3階 議会会議室

出席者：（外部委員）

中川会長

浅田委員、荒木委員、池上委員、大島委員、門屋委員、北川委員、喜多村委員、ゲレンチェール委員、眞田委員、渋川委員、庄田委員、高野委員、田和委員、畑中委員、若本委員（50音順）

（内部委員）

石田委員、岡田委員、田淵委員

<事務局>

総合政策部 水越、SDGs政策企画課 岩下、藤本、川本、田籠

傍聴者：0名

1. 開会

事務局より出席者の紹介、開催方法について確認があった。

2. 案件

（1）第7次総合計画（案）について

事務局より資料2、3、4についての説明が行われた後、次のように質疑・意見交換が行われた。

<会長>

只今のご説明を踏まえて、委員各位からご意見があればお聞きしたい。

なお、この計画についてはパブリックコメントを経ているとのことなので、今回はキャッチフレーズを中心にご議論いただきたい。先ほど、事務局から説明のあったキャッチフレーズ案は平凡すぎるかもしれない。しかし、キャッチフレーズの良し悪しだけでなく、こんな要素を取り込んでどうか、というアイデアをいただきたい。一方、キャッチフレーズはある意味で平凡であってもよいというご意見もあるので、先ほどの私個人の平凡という評価にはこだわらず、ご意見をいただきたい。

<外部委員>

私もどちらかという、平凡のように思った。ただ、職員の投票結果をみると、人を惹きつけるようなものが投票されているように感じた。キャッチフレーズとなると、健康、豊か、美しい、緑などを並べて、そこに市が入ってくるものが多いが、ここでは意表を突いたものが出ており新鮮に感じた。相対的にという感じかもしれないが、一番多い投票ということだったので、その意味では同じように響くところがあったような気がした。

<会長>

資料の一番最後のページに職員の投票結果が掲載されているので、それらを踏まえてご発言をお願いしたい。

<外部委員>

このキャッチフレーズの中で、「みんなが主役 いきいき池田 未来につなぐまち」というものがあり、これが一番しっくり来るイメージだが、中学生アンケートも見ると、自然や緑がこのキャッチフレーズにはないので、勝手に私が思ったアイデアでいうと、「みんなが主役 未来につなげ 緑豊かな いきいき池田」が、平凡かもしれないが、池田市の環境面の良さや、未来志向の持続性も踏まえたものになると考えている。

<外部委員>

門屋委員と同じように、「みんなが主役」が平凡だが素敵だと考えている。

職員の投票件数が少ないことには驚いた。

キャッチフレーズを最終的に、具体的にどうやって、誰に、何を訴えて、活用するのかの確認が必要で、平凡なものでも良いと思うが、これをどのように活用して、何を効果的に進めていくのか、市の考えを聞かせていただきたい。

<会長>

誰に向けて、については行政から説明が必要だが、私から説明すると、全市民、全議員、全職員で特にターゲットは定めていない。市の最高計画になるので、全ての人ということになる。運用についての見解は貴重なことなので、事務局より説明をお願いしたい。

<事務局>

一つの世代や社会的属性の一部に限定するということではなく、全ての方ということになる。ただ、おっしゃるとおり、対象によって、見せ方や表現などの工夫を変えていかないといけないと認識しており、それぞれに応じたアプローチの仕方があろうかと思っている。

あくまで対象は全市民、全職員である。職員からの投票総数が少なかったというご指摘もあり、事務局からもお詫びさせていただいたが、それぞれの下位計画策定、事業実施に当たって、総合計画の理解はもちろんのこと、各施策シート等のどこを進めていくべきだからこそ、これがあるというところまで含めて、それぞれの計画等、事業等において、ふさわしい姿、想像力を働かして、アプローチの仕方を考えていかなければならないと認識している。

これを作って終わりであるということではないと事務局から訴えかけていき、周知していく必要がある。外向けより、まずは内向けから、全市民相手よりも、まずは全職員の理解が必要である。事務局だけでできることではないので、そちらを優先にしていかなければならないと考えている。

<外部委員>

将来像のキャッチフレーズということで、私も未来というキーワードを入れたくて、「未来の暮らしに愛が溢れる 住み続けたい池田市」のように、未来というキーワードと、愛が溢れるという具体的な愛というキーワードを入れることで、ターゲットとなる市民にとってもわかりやすく、池田市の方向性を理解していただけるのではないかと。

<外部委員>

この挙がっているキャッチフレーズの中で、どれが良いかは決めかねるが、判断材料として重要だと思うのは、施策の方針として、「住みやすい」「住んでみたい」「住み続けたい」が最初に掲げられているので、その要素がキャッチフレーズの中からブレイクダウンできるような意味合いのキーワードを入れるべきである。

市民にとっては、池田市に愛着を持っており、この方向で発展したら良いという肯定的なイメージが強いと思うので、みんなで今後もこの方向でまちを育てようというイメージが出てきたらよい。そういった意味でも快適さという言葉もキーワードの一つになってくるのではないかと。

他の自治体の方と話をする機会があったが、総合計画を作らない自治体も出てきている。作らない自治体の方に話を聞いたら、本当は作っておけば良かったとのことで、総合計画を作るプロセスの中で、市として全体の方向性を考える機会を逸してしまったとおっしゃっていた。キャッチフレーズもそうだが、総合計画を有効活用いただいて、市の未来の方向性を示せるように有効活用いただきたい。

<会長>

ここに挙がっている38項目については、こだわりは持たずに組み立てるべきということか。

<外部委員>

説明できることが重要で、判断基準を入れていただいたら、ということである。

<外部委員>

概ね、この案で良いと思っているが、一つ引っかかった点が、「住み続けたい」である。市民というと、ほとんどが住民であると思うが、在学・在勤で、住んでいないが池田市と関わりのある方もいる。この計画では関係人口も重視されているので、住むだけじゃないということを考えると、「住み続けたい」はどうなのかと感じた。

また、「いきいきと暮らし続けられるまち」について、計画の柱の名前で似たようなフレーズを使っているのだから、キャッチフレーズでは違う表現を用いる方が良いのではないかと。

応募されたキャッチフレーズについて、「居場所」が入っているものがあつたが、「居場所」というキーワードは住んでない方にとってもピンとくるキーワードではないかと。

<外部委員>

キャッチフレーズについて、最初は平凡かと思ったが、資料2の4つの柱と並べて、ワンセットで見ると、わかりやすい。キャッチフレーズの中では、一番投票が多かったもの「だったらいいな」が想像の幅が膨らむので良いと感じた。大学生の方が意見されているというのも未来性がある、個人的には良いと思っている。

池田市としては緑を入りたいというのは非常によくわかるが、外部向けに池田市が緑を推しているということを伝えるのであれば良いが、市民にとっては、緑は既に身近なので、市民向けのキャッチフレーズであれば緑は不要ではないか。

<外部委員>

キャッチフレーズについて、「未来につなぐまち」というニュアンスは良い。SDGsもそもそも持続可能性を追求するのが、どんどん未来につなぐということになる。何を繋ぐのが良いのかが重要になるのが、キャッチフレーズは「未来につなぐ」が良いと感じた。

ただ、完成したキャッチフレーズの使われ方が見えず、現行のキャッチフレーズも見ることがないので、駅前でアピールするなど、キャッチフレーズ決定後の市民へのアピールがわかりやすく行われると良い。

<外部委員>

キャッチフレーズの議論が進んでいるが、引っかかっている点は、総合計画について、自分たちの想いを載せてキャッチフレーズを応募されてきた方である。キャッチフレーズを応募して、想いを乗せて、こんなまちであって欲しいという希望を持って、送ってくださっている。どのキャッチフレーズが良いのか、職員の方が投票されたキャッチフレーズも、応募内容そのまま使ってはどうか。せっかく応募のあったキャッチフレーズを加工して崩してしまっているのか、少し気になっている。

<会長>

キャッチフレーズは、基本構想の中身を的確に表しているものであれば良いということか。

<外部委員>

そのようなキャッチフレーズがないということで議論になっているが、市民と職員が計画を進めていく中で、常にそれが前に出て、総合計画が意識されるようなものでなければならない。

<会長>

おっしゃるとおりで、キャッチフレーズが職員に意識され、出てきた時に総合計画であると反応してもらうためにある。行政の物差しとしては重いものになる。

キャッチフレーズの募集も市民参加になるのではないかと。プロセス論としては、間違っていないと思うが、いかがか。

<外部委員>

キャッチフレーズをそのまま使わないのは、いかがなものかと考えている。

<会長>

そのまま使用するのが良いということか。

<外部委員>

どれかを選んで使っていくことで、池田市の総合計画について、こんな気持ちに乗せて応募したということも発信できるのではないか。

<会長>

私の経験上、そのような事例は10分の1である。というのも、総合計画の構造上、一発で市民が言い当てるのは難しいと考えているため、市民の意見のある程度は加工していく必要があり、やむを得ないと理解している。専門のコピーライターが募集された場合は話が違ってくる。

<外部委員>

先日、テレビで秋元康氏の作詞について話を聞いた時に、耳に残って調べてみよう、考えてみようとなる言葉が大事とのことだった。例えば、先ほどから話題になっている、「だったらいいな」を叶えるまち いけだ」だと、耳に残って考える。「それ、いけ、だー！」も、どのようなことを進めていくのか、考えるきっかけになるのではないか。緑や笑顔も方法の一つであり、行政が進めるならそのような言葉になると思うが、池田市をアピールする時、耳に残るような言葉で引っ張っていくことが市民へのアピールにもなるのではないか。

<外部委員>

私の個人的な好みでいえば、「みんなが主役 いきいき池田 未来につなぐまち」と考えている。というのも、総合計画が何を指すのかということで、SDGs推進を目指す市であり、全ての世代が主役となるまちづくりを示している言葉であると考えている。

また、「だったらいいな」は様々な可能性がある言葉だと考えている。キャッチフレーズは、総合計画の内容を想起できるようなものがキャッチフレーズのあり方かと思ったが、総合計画の内容を理解しつつも、自分事として考えていくことが大事である。キャッチフレーズを耳にした時や目の当たりにした時に、自分たちのまちのあり方を考えるようなキャッチフレーズにするのも良いと考えている。

ただ、職員の投票があまりにも少なかったのが残念である。市民からいただいたアイデアに対して、あまりにも数が少なくて、追加でも実施した方が良いのではないかと考えている。この票で決定してしまっても良いのか、皆さんがどれくらいの投票をして決めたのかを聞かれた時に答えなければならないと思うので、その点も含めて検討いただきたい。

市民から出たご意見を尊重された方が良いが、議論のプロセスの中で必要であれば変更しても良いと考えている。ただ、そのプロセスについて、参加された市民、参加されていない市民に対して、どのような考え方で手を加えて、変更したかを説明していく必要がある。

<外部委員>

キャッチフレーズが何であるかを考えた時、総合計画の興味関心を喚起するものだと考えている。そう考えると、インパクトも重要な要素だと考えている。キャッチフレーズの意味だけでなく、SDGsやその他の取組において、市だけで解決していくことができないもの、より一層の住民参加を求めていく必要のあるコンテンツが多い。少しでも市民の頭に残せるように、インパクトは重要であると考えている。

内容面でいうと、案でいただいているキャッチフレーズを見た時、池田市にある良さをそのまま書いて伝えていくのも重要だが、池田市の良さを伝えてどうしていくのか、形が決まっていなくても、変えていこうということを想起させるものであればよい。個人的な好みでは、「だったらいいな」を叶えるまち いけだ」はあまり見ないキャッチフレーズなので魅力がある。叶えるという手法が総合計画を見たら、市民の想いが叶えられるヒントになるような総合計画になっているというストーリー付けができると考えている。

<外部委員>

「だったらいいな」を叶えるまち いけだ」は、パンチ力があって良く、市民側の立場だった時に入りやすいと考えている。また、「人に優しく まちに優しく 魅力ある池田へ」を少し変えて、「人に優しく 緑に優しく 愛のあるまちへ」に変えることで、中学生アンケートの問6にある上位3つが治安がよい、自然環境がよい、近所や学校に親切な人が多いというアンケート結果にも繋がるのではないかと。そちらも池田市に既にある魅力が含まれているもの、プラス内外にアピールしたいものが含まれている。これら二種類の案が良いと考えている。

<外部委員>

職員投票の結果として、「だったらいいな」を叶えるまち」が良いと考えているのならば、それで良いと考えている。

<会長>

本編の中身がある程度誘導していく、見てみたいなどと思わせるようなものであることが第一義であろうと思う。その一方で、キャッチコピーだけで中身を言い表すことは不可能である。それでもあえて特出しをして、池田の今後10年で目指していくものをカラフルに出すとなると、施策の柱の1番から4番をいかに要約するかということになる。ただ、1番から4番をキャッチコピー的に固めると、説明堅くなってしまう。そうなるとうまく何かを切り貼りしていかななくてはならないことになってしまう宿命がある。

<外部委員>

インパクトがある方が良く考えている。また、やはり池田市民の方から、たくさんの意見が出なかったことを踏まえると、住民の方にある程度考えてもらえるようなキャッチフレーズが良いと考えている。そのため、「だったらいいな」のように、何を言っているのかを考えていただけるよう、インパクトはあるが少しボヤっとしたものを選んではどうか。

<会長>

一定のインパクトは必要で、更にある程度は内容についての説明性も必要である。

ただ、皆さんのご意見を聞いていると、一方的にインパクトで押し通せという意見はなかった。一方で一から説明した方が良くというご意見もなかった。となると、加工せざるを得ない。市民の意見のどれかを採用すべきではないかというご指摘があったが、どれが妥当なのかを見つけられるかというを見つけられない。皆様のご意見を勘案しながら、事務局と協議したいと思うが、延々と議論することはできないので、事務局と私にご一任いただけないか。その上で、皆様のご意見にもあったように、一定の印象に残るようなインパクトを追求しながら、目指そうとする将来性をピックアップできるような説明を付加したようなものを勘案して、作り直していく作業をやっていきたい。

ただ、この中に出てきている市民の案を土台としたい。資料3の1番には、若手の委員のご支持があったように思う。25番も、明確に二人の委員から支持するとのご意見があった。ただ、加工してほしいとのご意見もあった。ご意見を踏まえて、校正作業を進めていきたい。行政と私だけでなく、専門家の意見も聞いて固めたい。

<事務局>

事前にこのキャッチフレーズを作らせていただくにあたって、会長からもあったように、どのような姿が出てくるかも見えない中で、そのまま使えるようなものが出てくる確約もない中で、加工する可能性も示唆しながら市民の皆様のご意見をいただいた。

ご指摘のあったように、一人一人の意見には想いがあり、できれば加工せずに採用するというのもあると思う。先ほどいただいているご意見を拝聴していると、キャッチーなものと説明的なものを組み合わせ、また、サブタイトル的なものもありうるというご意見もあった。サブタイトル的なものも併用しながら、訴えかけていく方法もあるかと考えている。個人的な感想で恐縮だが、「だったらいいな」を仮にそのまま使ったとしても、具体的な要素を訴えていくようなものを別途備える方法もあるという有意義なご意見を頂戴した。会長共々、我々の方で調整しながら、途中経過をご報告できるよう、またご意見を賜りたいようなことがあればいただきながら、進めさせていただきたい。

<会長>

行政側の委員のお三方から何かご意見があればお願いしたい。

<石田委員>

個人的に感じたのは、2つポイントがあった。インパクトと最小限を網羅したワードである。メインとサブというのは私も良いと考えている。私が良いと考えたのは、職員アンケートの2と3位である。キーワードは「共に」と「私」が最小限のキーワードかと考えている。

<岡田委員>

総合計画の中身を一言で述べるのは難しい。話の掴みがキャッチフレーズだと考えているので、「「だったらいいな」を叶えるまち いけだ」のように、どんなことが書かれているのかが気になるようなキーワードが良いと感じている。

<田淵委員>

インパクトのある言葉がキャッチフレーズとして浮かんでくるが、一方で総合計画をある程度イメージできるものも大事と考えており、どちらをメインにして、どちらをサブにするのかは難しいが、どちらも必要であると考えている。

<会長>

行政からの委員のお三方も、メインとサブがあった方が良い、キャッチーなものもありがたいがそれだけで終わらずにある程度は内容が読み取れるものが良いとのことなので、メインとサブは一緒だと考え始めている。メインでキャッチーな言葉を述べて、サブで説明できる言葉があれば良いと考えている。そのような方向性で作業を進めたいが、よろしいか。

(一同了承)

(2) その他

<会長>

次回が最終回となり、第7次総合計画の答申の日となる。市長にお渡しする答申の内容は、これまでに皆様からいただいたご意見を総括した、第7次総合計画案そのものとなる。今、お手元にある資料2が、審議会から出る答申案そのものとなる。この計画案に盛り切れなかったご意見もあるが、下位計画に反映できるような内容も多くあった。そのような措置をしていただいていると理解している。今後の市政運営に活かすことを期待したいということを答申書に記載して、総合計画審議会としては、総合計画を最上位計画とする行政運営を今後行うようお伝えしたい。

次回の審議会の日も近づいている。本体ではなく、鑑の文章についても事務局と私で作成する方向でよろしいか。

(一同了承)

追加のご意見があれば、今週中を目処に事務局までメールをお願いしたい。

多くの委員にご出席いただいたが、十分にご発言いただけなかったことを反省している。できる限り、おっしゃっていただいたことを活用する方向で作業を進めたい。

本日の議題は以上となる。進行を事務局にお返しする。

3. 閉会

事務局により、次のように事務連絡が行われた。

<事務局>

配付資料について、補足説明をさせていただく。中学生アンケートについて、自由記述の生の意見を知りたいということなので、その部分を追加したものを完成版として本日資料としてメールで送付している。市ホームページ上でも公開しているので、ご報告させていただく。

次回審議会は、4月19日15時池田市役所3階議会会議室にて対面で開催する。次回が最終回となり、案件としては答申となる。第7次総合計画について総合計画審議会にてご審議を重ねていただいた。最終回である次回では市長への答申を行わせていただく。ご多用とは思いますが、ご出席をよろしくお願いいたします。

以上で、第4回池田市総合計画審議会を閉会とさせていただきます。

以上